

普光寺だより

令和5年5月5日 第6号

真言宗豊山派
浦佐毘沙門堂別当普光寺



長谷寺 十一面観音様

弘法大師ご生誕1250年

長谷寺・高野山参拝の旅 (3月27〜29日)

普光寺住職 樺澤賢正

宗祖弘法大師ご生誕千二百五十年記念の奉祝参拝を終え、天候に恵まれ、満開の桜を愛でることができたことに安堵しています。

お寺が企画する団参は、健康・観光・信仰の「旅の三コウ」がつきものですが、特に「信仰心」が養われます。一般的な観光で神社仏閣を訪れる場合、文化財としての立派な堂塔、仏像・仏画などを観てきてよかった…という具合で、「行って観てきた」というニュアンスが強いのではないのでしょうか。しかしこの度の旅は、訪れた各所なぜここを選んだのかとい

う意味付けが分かり、所どころで「般若心経」を唱え乍らの「お参り」の旅でありました。道中、参加の皆さんが自然に「掌(たなごころ)」を合わせる姿は美しいものでした。

初めてお参りが叶った久米寺は、弘法大師が「大日経」を発見し、唐へ留学する決心をしたという縁の深いお寺で「真言宗発祥の地」とされています。東塔の礎石に感動。この度発行のおたよりで、「同行十五人」の感動が、少しでもお檀家の皆さまと共有できればありがたく思います。

南無大師遍照金剛 合掌

総代長 島村弘(喜町)

昨年の秋、総代会で住職より中越地区で「弘法大師生誕千二百五十年記念旅行」があり、各寺より五名参加できるがどうですかと、話されました。五名という制限の中で誰を選ぶのが難題でした。



高野山 奥の院参拝

高野山には 117カ寺、末寺 3600カ寺、信徒 1千万人

それでは、希望する檀家の皆さんが大勢行けるよう、普光寺で計画することに決断いたしました。

私も未だ、総本山長谷寺参拝の機会になかなか望まれません、総代長として気にかけておりました……。

誰もが一度はお参りすべきと思っております、年度末の忙しい時期でしたが、自分へのプレゼントと思いい家内の了解を取り付けました。

3月27日根来寺・高野山、28日高野山・久米寺・岡寺・長谷寺、29日長谷寺・東寺と三日間とも好天で満開の桜が私どもを迎えてくれました。

清水 俊晃（堂番）

このたびは、普光寺の高野山・長谷寺参拝に同行させていただき、誠にありがとうございます。

本年は真言宗開祖、弘法大師御生誕一二五〇年という節目の年であり、またコロナ禍が一段落した中で、久しぶりの団参ということで、同行された皆様と有意義な時間が持てたこと、誠に感謝申し上げます。

また、真言宗豊山派総本山長谷寺は「花の御寺」と称されるよう



岡寺大師堂にて般若心経を

に春夏秋冬様々な花を愛でることができ、ます。普段お檀家さんにお話をしておりますが、私自身

実際に花の見ごろの時期に参拝したことがなく、今回初めて満開の桜の中・参拝できました。

何はともあれ、皆様と無事に過ごせたこと重ねて感謝申し上げます。

関伸吉・ハツエ（川原町）

団体旅行は、今回限りと言いついで参加しました。

一日目の宿は、高野山宿坊「三宝院」女性部屋は二階。階段が長く急なため、足の悪いばあさんには無理で、一階に移していただき、清水さんの奥さんが付き添ってくれました。



方丈様のお酌に笑顔のご夫婦

二日目 は、早朝の清々しい空気の中、弘法大師が入定した高野山奥の院を参拝



長谷寺本坊前にて、全山満開の桜と国宝本堂をバックに

井口優美子（西浦）

きつと、桜の開花が早いから、和歌山・奈良・京都は、満開の桜だと思っていたら、想像以上の桜の花のすばらしさで、ありがたい参拝の旅になりました。

千二百五十年前にお生まれになり、とても賢くあらせられ遣唐使として、舟は難破したが唐の海岸に打ち上げられ、唐で修行し沢山のお経を日本にもたらされました。

高野山「金剛峰寺」では、弘法大師空海様の偉大なお心に触れる。密教の仏様たちの世界を立体的に表した「東寺」。そして「本山・長谷寺」長い階段を登り、十一面観音



本山参拝5回表彰を受ける

様にお会いする。やはり、参加させていただけ良かったです。

吉田俊洋(堂番)

令和五年度は「真言宗」を開かれました弘法大師空海の、ご生誕千二百五十年記念の年です。普光寺さまの「高野山と長谷寺参拝の旅」に随行の機会を得ました。

今回の旅は、往復飛行機でしたので、移動時間がすくなく、多くのお寺を参拝できました。行くお寺、行くお寺、満開の桜が、私どもを迎えてくれました。



長谷寺本堂から・全山桜が満開

特に長谷寺は、数十回訪れていますが、このような見事な桜は初めてでした。また、六年ぶりの

東寺も桜が満開。

二十数年前、私が大学一、二年の時、大東寺の境内の中にあり、先輩

と授業を抜け出しては花見をしていた事やバイト帰りに九条通りからライトアップされた五重塔と桜を見ながら帰ったことを思い出しました。



東寺 五重塔と桜

大変良い旅でした

小島澄夫・やよい(天王町)

弘法大師ゆかりの地高野山をはじめ、行く先々で桜が満開。そして、総本山長谷寺のご本尊十一面観音様の御足に触れてお参りしました。根来寺、久米寺、ご詠歌七番の岡寺、東寺と多くのお寺で、般若心経を唱えました。

三日目は、京都嵐山で昼食を食べ、人人の渡月橋を渡り、ワシカップ、缶ビール片手に桜の木の下で花見をしました。

バスの席は、前から車に弱い人、ガイドさんの話を聞きたい人、飲んべえの人と、自然に席が分かれるようです。ガイドさんの呼び名も何故か「看護婦」さんになる。話し上手、そして知識はものすごい！般若湯で



盛りあがっている席も、ガイドさんに圧倒される。楽しい、思い出多い旅がありました。

志太政男(総代・芹田)

お寺様にかかわる様になり、いつかは行ってみたいと思っていた「高野山・長谷寺」の旅。弘法大師空海ご生誕千二百五十年記念に参加できたこと、

非常にうれしく思っています。朝早く妻に見送られ家を出発しました。新潟からの飛行機は何十年ぶりの搭乗だったので、緊張とワクワクする中、伊丹空港に着陸し旅がスタートしたので。

高野山、長谷寺、他のお寺と説明を受け、その時は納得しましたが、覚えてはおりません。しかし、視界からの記憶は、今でも鮮明に思い出すことができます。それほど良かったんだと思います。又、泊りは「一日目は宿坊、二日目は門前旅館」。般若湯が湯水のごとく出てき、夜の時間も楽しく過ごしました。



2日目 旅館「井谷屋」さん



6時宿坊三宝院「朝勤行」お勤め後食事

清水義人・陽子(門前)

今回は、自分のルーツを訪ねる旅でした。

私と姉は、高野山関榮覚管長(明治10年浦佐村生る。三宝院住職を得て、昭和21年就任)から命名していただきました。

貧乏な家だったが、座敷に飾ってある額装の命名書だけは、立派で威厳がありました。祖母が高野山の三宝院にお世話になっていた関係で、命

名してもらったようだが、祖母は小学1年の時に亡くなり詳しい話は聞くことができませんでした。

そんな訳で、高野山は自分にとつて大きな存在で、訪れなくてはと思いながら、この年になるまで縁がなかったため、この度の案内に飛びついたら次第です。

三宝院に泊り、高野山を詣でることで十分満足でありましたが、旅の友に恵まれ個人では入ることのできない所まで拝観させていただき大満足の旅となりました。ご住職をはじめ皆さまに感謝です。

志太誠(芹田)

親父(善太郎)が、普光寺に係わっていたので嫌だったが、誘われたので行くことにしました。

初日から般若湯(お酒)を頂き楽しい三日間でした。参拝先の知識不足でしたので再度訪れたいと思います。

★弘法大師空海

774年に讃岐の国(香川県)に生まれ、幼名は眞魚。20歳で出家。31歳で唐に渡り、真言密教の教えを授かり、帰国後高野山を開く。入定から86年後、醍醐天皇から、「弘法大師」の諡号を賜る。

★長谷寺

真言宗豊山派の総本山。創設時は、東大寺の末寺であったが、16世紀以降に覚鑿(興教大師)によって真義真言宗の流れをくむ寺院となる。

豊臣秀吉により根来寺を追われた真義真言宗門徒が入山し、同派の専誉僧正により、真言宗豊山派が成立する。



長谷寺長廊下



根来寺 国宝の大塔と大伝法堂

★根来寺

空海入定後300年、当時の高野山は墮落しており、入山した覚鑿は復興に努めたが、高野山宗徒は反発し対立となったので、覚鑿一門は高野山を下り根来寺に移る。室町時代には高野山をしのぐ、宗教都市を形成する。

★久米寺

1ページの方丈様の記述の中で紹介されています。

★岡寺

創設時は法相宗であったが、江戸時代に長谷寺住職が入山し、真言宗豊山派となる。

飛鳥の岡にある寺「岡寺」と呼ばれ、日本最初の厄除け霊場。

★東寺

空海によって創建され、真言密教の根本道場。空海の住居であった。

編集後記

皆さんの旅の感想を整理し、改めて、普光寺として計画・実施出来て良かったです。他に関広雄さん(新町)も参加しました。

(総代 関常幸)